

地方公共団体名: 岡山県笠岡市

○提案内容

(1)実現したい島のビジョン・方向性	
<p><b>ビジョン 「いつまでも安心して住み続けることができる笠岡諸島」</b></p> <p>笠岡諸島は、岡山県の南西端の笠岡市沖にあり、瀬戸内海のほぼ中心に位置する。大小30余りの島々からなり、その内の高島、白石島、北木島、真鍋島、大飛島、小飛島、六島の7島が有人島である。</p> <p>伝統的な祭事なども残っており、歴史的な面でも多様な遺跡、文化、伝統などがそれぞれの島の大きな特徴となっている。特に「白石踊」は国指定重要無形民俗文化財に指定されている。</p> <p>令和元年5月には、笠岡市、丸亀市、小豆島町、土庄町の2市2町により共同申請していた「知ってる!? 悠久の時間が流れる石の島～海を越え、日本の礎を築いた せとうち備讃諸島～」が日本遺産認定された。4市町の構成文化財は48件で、笠岡諸島からは、北木島の丁場(石切り場)、旧映画館「光劇場」、大飛島遺跡など12件が組み込まれている。しかしながら、PR不足のため観光客誘致に結び付いていないため、積極的に日本遺産をPRすることにより、交流人口を増やしていく必要がある。</p> <p>基幹産業は、かつては石材業、漁業、観光業などが盛んだったが、現在はどれも衰退傾向にある。</p> <p>笠岡諸島の人口は、昭和35年には1万1千人を超えていたが、大きく減少しており、現在は1,449人となっている。また、高齢化率は72.7%と笠岡市全体の高齢化率37.6%に比べてかなり高くなっている。(令和3年10月1日現在住民基本台帳)</p> <p>このような状況の中、島民、民間団体、行政との協働を通じて地域コミュニティの継続的な維持を図りつつ、災害時対策、医療体制の充実、イノシシ駆除対策、職場環境の整備等に取り組み、SDGsの目標である「住み続けられるまちづくりを」目指し、島で生まれ島で育った方々がいつまでも安心して住み続けることができる環境を実現する必要がある。</p>	
(2)新技術の導入により解決したい離島の課題	課題の分類
<p><b>課題① 災害時における脆弱性</b></p> <p>津波や地震などの大型災害などが発生した際、港の崩壊や災害ゴミのため、船を港につけることができず、長期間孤立してしまうおそれがある。</p> <p>そこで、災害時でも安定した物資を提供できるように環境を整える必要がある。</p> <p>また、長期間生活することになる避難所においても通信網の確保が必要である。</p> <p>さらに、早期に災害状況を把握することが必要である。</p> <p><b>課題② 生活物資の調達</b></p> <p>人口減少に伴い店舗が減り、高齢者が島内で買い物をするのが出来なくなってきている。また、島内に店舗のない島も有り、高齢化の進展によって、長時間船に乗っての生活物資の調達が困難な島民が増えてきている。共同購入の仕組みもあるが、冬期の波高が高い場合は危険で、小型船での運搬が困難なため、対策が必要となっている。</p> <p><b>課題③ 医療体制</b></p> <p>島内の診療所には、陸地部から医師が船舶で通い、島には常駐医師がおらず、月に2回しか受診できない島もある。さらに海が荒れた時には医師が島に行けず受診できなくなる。</p> <p><b>課題④ 観光振興</b></p> <p>笠岡諸島は日本遺産に認定されたものの知名度が低く、また十分な観光客収容のためのPR素材が不足している。また、さらに島の魅力を十分に感じる事が出来るアクティビティを充実し、積極的に発信していくことが必要である。</p> <p><b>課題⑤ 鳥獣害被害とそれに伴う高齢者の引きこもり</b></p> <p>人口減少に伴い農地が荒れ、イノシシの増加による被害が深刻である。</p> <p>笠岡諸島には単身高齢者が多く、「イノシシが怖くて外を出歩けない」、「家庭菜園をしても荒らされるから辞めた」といった島民も多く、高齢者が一人で家にいる時間が長くなり、安否確認が遅れたり、認知症の増加につながるという課題がある。</p> <p><b>課題⑥ 働く場所の減少及び通信環境整備の遅れ</b></p> <p>島嶼部では働く場所がほとんどなく、若者が島から出ていってしまう。そのため、笠岡諸島には風光明媚なロケーションの中に、廃工場や空き家が多くあるため、ワーケーションには最適な環境である。</p> <p>しかし、島嶼部においては人口減少の要因から、採算の見込みが立たず、大容量通信回線の整備が進んでいない。</p> <p><b>課題⑦ 救急体制</b></p> <p>島嶼部の救急患者の搬送は、最寄りの港まで地元消防団の方が対応している。</p> <p>しかし、地元消防団の方も高齢化(平均年齢60代後半)しており、車も通れない場所が多く搬送が困難になっている。</p>	<p>下記のうち、該当するものを○で囲んでください。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>交通・モビリティ</li> <li>アイ</li> <li>物流</li> <li>産業</li> <li>担い手確保・人材育成</li> <li>健康・医療</li> <li>教育</li> <li>観光</li> <li>環境</li> <li>エネルギー</li> <li>防災</li> <li>その他</li> </ul>

**(3)新技術の導入による課題解決の方向性(イメージでも可)**

**課題①②の解決策**

災害時での通信網を確保するため、避難所に公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備を行う。併せて太陽光発電と蓄電池システムの整備を行う。

また、ドローン等による緊急物資の配送及び災害状況調査を行う。

船舶の無人自動航行技術で、暴風で波高が高く、ドローンも飛行できず、また一般の船が航行できない場合でも生活物資(食料、日用品、石油製品など)や緊急物資を運搬できるようにする。

**課題③の解決策**

船が欠航して医師が島に行けない時には、ICTを用いた遠隔診療等の技術を用いて、島の患者が受診できるようにする。

**課題④の解決策**

ドローン等を活用した空撮により、新たな視点での観光PR素材を充実させ、島の魅力を最大限伝えられるようにする。また、ドローン等を島内観光の1つのアクティビティとして活用できる仕組みを構築し、ここでしか出来ない経験を提供する。

**課題⑤の解決策**

固定カメラやドローン等を用いて、イノシシの生息域や活動状況の調査を行う。状況把握を行った後、イノシシを捕獲するための罠の設置やIT技術を用いて生息数の減少・害獣被害を減らす対策を行う。

また、単身高齢者が部屋の明かりを付けるなど一定の行動をとると、AIスピーカーが会話をし、内蔵したサーモセンサーで体温を測ることによって、体調の異常や認知症等を早期に発見し、親族等に通報するシステムといった、見守り機能、認知症予防と体調管理を兼ね備えた仕組みの整備を行う。

**課題⑥の解決策**

最先端技術を用いた、高速大容量無線通信の整備を行う。

**課題⑦の解決策**

狭隘な道でも通行可能な、一人乗りもしくは二人乗りで、担架を搭載した自動運転技術を用いた電気自動車を導入する。ラストワンマイルの移動をサポートする緊急車両の導入。

**(4)その他**

※参考資料がある場合は適宜添付をお願いします。

**○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)**

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
企画政策課	高田 直人	0865-68-2004	<a href="mailto:kikakuseisaku@city.kasaoka.lg.jp">kikakuseisaku@city.kasaoka.lg.jp</a>